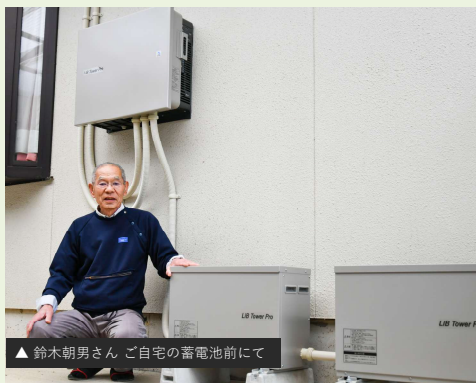


INTERVIEW

停電してもあんしん 蓄電池の“パワー”実感



2023年に千葉県から生坂村へ移住した鈴木朝男さん。空き家となった奥様の実家を活かしながら、太陽光パネルと蓄電池を導入。実際に停電が発生した際に効果を実感したそうです。村の暮らしと脱炭素について伺いました。

Q：生坂村に移住したきっかけは？

妻の実家が空き家となり、千葉の家を売って移ってきました。父が自衛隊で各地を転々としていたので、土地への愛着というよりは、実用で選んだ感じです。

Q：太陽光パネルと蓄電池を導入した決め手は？

本当は蓄電池が欲しかったんです。東日本大震災で千葉も停電し、冷凍庫の中身を全部捨てた経験があったので、停電対策が必要でした。

Q：実際に効果はありましたか？

雨の日に停電があったのですが、切り替わる一瞬を除けばエアコンも効いたまま。あって良かったと心から思いましたね。蓄電池は絶対に必要だと思います。

● いくさかてらすコーナー

生坂村のPPA事業について

PPAとは、電力の小売契約のこと。株式会社いくさかてらすが各ご家庭に太陽光パネルと蓄電池を無償で設置し、ご家庭は発電された電気のうち使った分だけを電気代として支払います。いくさかてらすのPPAプランに加入した場合の電気代をシミュレーションすることもできます。

電気料金シミュレーションの例 (PPA17年プラン)

- | |
|--|
| ① 4人家族 (現在は大手電力会社と契約)
契約 40A / 使用量 260kWh
9,125円 → 7,535円 |
| ② 2人家族 (現在は新電力と契約)
契約 40A / 使用量 198kWh
7,127円 → 5,891円 |

ともに約17%割安に

お問い合わせ先
株式会社いくさかてらす
TEL 0263-69-2388

● 松本山雅FC情報

脱炭素先行地域の共同提案者・松本山雅に関する情報をお届けします。

今回は昇格がない特別シーズン。J史上最多指揮数を持つ石崎信弘監督のもと、ハードワークを追求しています。

● 編集後記

今号から「龍と子」の企画・取材・制作に携わせていただくことになりました。生坂村が歩んできた文脈を踏まえながら、より「伝わる」誌面づくりに全力を注いでまいります。よろしくお願いします！（大枝）

お知らせ

村の脱炭素事業を紹介する動画を、ICN自主放送で放映中です。
SNSやHPからもご覧いただけます。

いくさか便り

龍と子



TOPICS / 今号の特集

脱炭素事業 これまでの歩み
鈴木朝男さん インタビュー

生坂村のマイクログリッドとは
いくさかてらす・松本山雅FC情報

vol
29

2026 May

全国に先駆けて、 生坂が動いています。

令和4年6月、生坂村は「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。それから約1年後の令和5年4月には、環境省が選ぶ「脱炭素先行地域」に選定されています。長野県内では4自治体、全国でも102提案という狭き門（令和8年2月時点）。あれから3年。村の取り組みは、いまだここまで来ているのでしょうか。



▲ 脱炭素先行地域 選定授与式（令和5年4月）

2030年度までに

— 65% —

村全体の二酸化炭素を、2013年度と比べて減らします。2030年度までに、民生部門の電力消費に伴うCO2排出実質ゼロ（カーボンニュートラル）達成を目指します。

国の目標	— 46% —
長野県の目標	— 60% —
生坂村の目標	— 65% —

* 2050年度には、
全部門において実質ゼロを目指します。

1

つなぐ

自営線マイクログリッド等のハード面でつなぐほか、この地域の将来を子どもたちにつなぎ、パトナタッチします。



▲ 村民説明会／公民館 村と人をつなぐ場

2

まもる

災害や停電から村民やブドウをまもります。また木質バイオマスの活用などを通して、村の山林や里山の風景をまもります。



▲ PPA太陽光パネル設置工事 電気自立で村を守る

3

めぐる

村内で発電された電気が村内をめぐる、木質バイオマス燃料活用で森を育てて再び使います。持続可能な資源の循環が生まれます。



▲ 地域の人材育成を図る「いくさか未来スクール」

Q. なぜ生坂村が脱炭素？

1

村の面積の78.3%が森林。豊かな自然と水を活かせる村だから。

2

産業（ぶどう栽培）、暮らし、自然が密接につながる村だから。

3

世代を超えて住み続けられる村でいるための、未来への投資。

村が自分たちで作る、 もう一本の「生命線」。

龍と子Vol.09でお伝えしてから、約2年。村が独自に進めてきた「自営線マイクログリッド」の工事が、令和8年度の完成に向けて、順調に進んでいます。難しそうな名前ですが、仕組みはとてもシンプル。村で作った電気と村が設置した電線で、村の暮らしと産業を支える仕組みです。今回は改めて、その取り組みをおさらいします。

▶ マイクログリッドの仕組み



村で作った電気を、村が設置した電線で必要ところに届けます。余ったら大型蓄電池にためて、足りないときに使う仕組みです。

▶ ことばの解説

自営線

電力会社とは別に、村が独自に設置する電気の路のことです。

小水力発電

水の流れを利用した小規模な水力発電施設のことです。

PPA太陽光発電

電力会社が各家庭の屋根（敷地）を借りて太陽光パネルを設置する仕組みです。

上生坂地区

停電が起きても、地区の中で電気を融通できます

災害時に避難所が暗くならず、エアコンも動きます
行政サービス等も止まらず続けられます

草尾地区

停電が起きても、農業を支える電気が確保できます

春先の遅霜から実を守る防霜ファンが動き続けます
犀川の水をくみ上げる農業用ポンプも安定して動きます

▶ PROGRESS／工事の流れ

上生坂地区はおおむねSTEP04まで完了。令和8年度は草尾地区の工事に着手します。

